

研究開発（2年次 ※延長3年次）

令和3年度

Laboratory研究



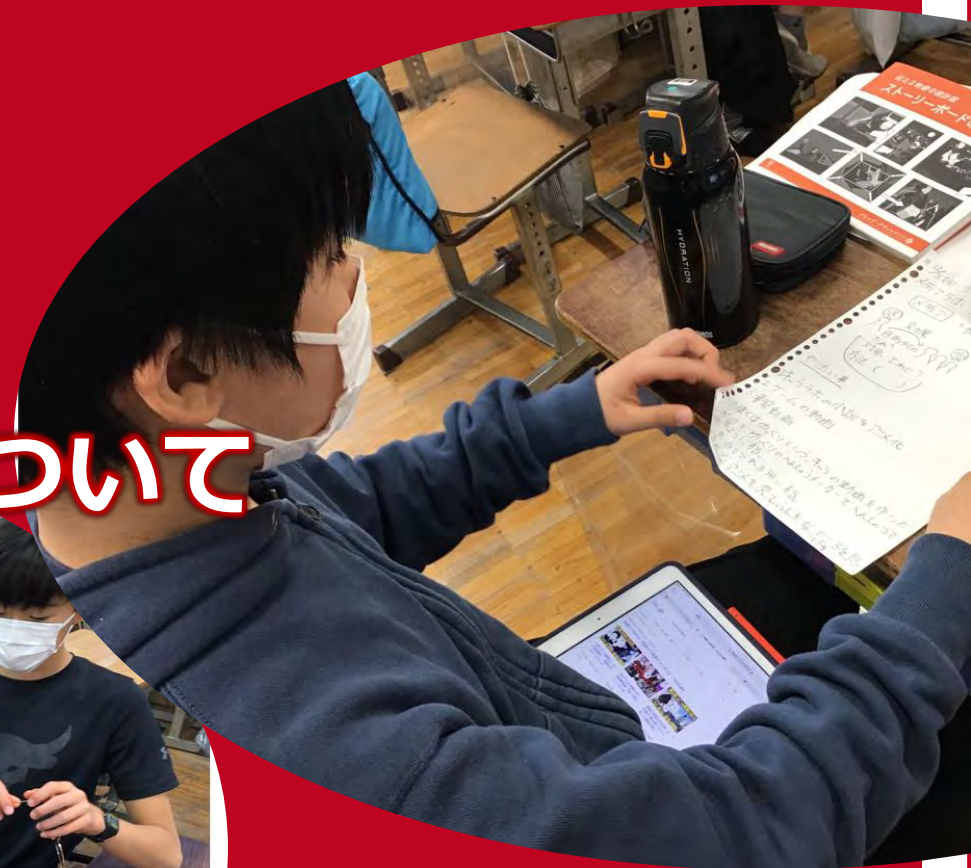
令和4年 1月22日(土)
Laboratory検討委員会

1 Laboratory構想について

2 今年度の実践（前期ラボ）から見えてきたこと



Laboratory構想について



①研究課題の整理

- ・ラボを設置する目的は何か。
- ・「ラボ」とは何か。
- ・本校既存の学習活動とどのように関連するのか違いは何か。
- ・異学年で交流する意味・意義は何か
- ・何年生からどのように設置し、運営するか

②課題解決に向けた「じぶんdeラボ」の試行

- | | | | |
|-------------|---|------|-----------------------------|
| ・第6学年における試行 | ～ | 宮田実践 | 子どもの「学び観」、目的的に活動 |
| ・第3学年における試行 | ～ | 鴻巣実践 | 計画をイメージしにくい、やりたいことが変わりやすい |
| ・第4学年における試行 | ～ | 西川実践 | 個とグループを子どもが自由に、ズレ、活動プロセスの発表 |
| ・第2学年における試行 | ～ | 大島実践 | ～したらどうなるの？ 失敗経験、夏休みの自由研究 |

Laboratory構想

○年生としての「ねばならない」ことに追われ、学びに疲れ切った子
「ねばならない」ことをこなした後、好き勝手にしたいと休み時間を欲しがる子

そんな子どもたちのために

子どもたち一人一人の「学びたいこと」を

学級や学年を超えた様々な仲間（大人を含む）との
ダイナミックなかかわりの中で
自分を見つめ 調整しながら 粘り強く たくましく
その子らしい学びを進めていくこと

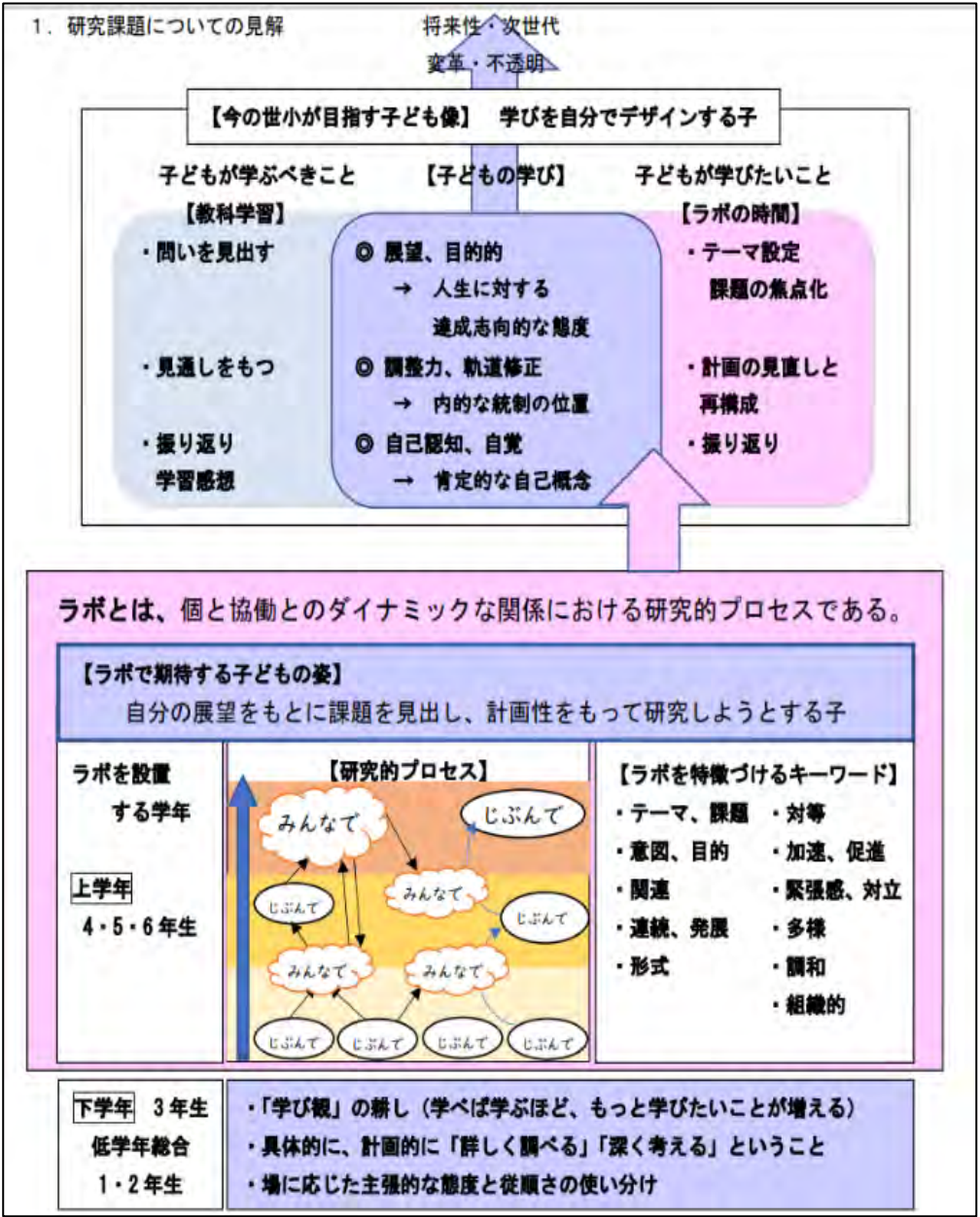
Laboratory構想について | WG内での見解のまとめ

子どもが
「～してよかったな」
「自分には こんなことが できるんだ」

「～になりたいな」
「～してみたいな」
「ここまでは分かった」
「次はもっと～したい」

新しい学習観を ！

ラボで期待する子どもの姿
「自分の展望をもとに課題を見出し、
計画性を持って研究しようとする子」



Laboratory構想について | Laboratoryにおける学びとは、どのようなものか

(1年次)

学級の仲間や担任との場だけでなく、
学級や学年を超えた様々な仲間（大人を含む）とのダイナミックなかかわりにおいて
自分の学びたいことをその子らしく展開し、
しかしながら自分を見つめ、調整しながら粘り強くたくましく、
自分の思いや願いに沿って進めていく学び

(2年次)

「みんなで」「自分で」は、**学び手のVision**が決めることから、これらを統一する。
教師と子どもが、ともに学び手としてデザインプロセスを歩む。
Laboratoryは、自分の学びのデザイン

Laboratory/ラボ＝研究室での探究

-学びの「Vision」に迫る道筋を「自分」でデザイン-（3年次）

- 一人一人がテーマや研究室を選んで ほとんど研究します
- 自分が選んだ研究室の教室に行って研究します
- 3年生はテーマごとに学年の人たちと、
4～6年生はテーマごとに学年をこえていっしょに研究します
- 1, 2年生の「ラボ」はありません

「学びのVisionをもち、それに迫るためにどういった目標・道筋、表現方法が必要になるか」を、思考し選択することのできる学習環境

①個に根ざした研究的・探究的な学び

②学びへの自信

③教師の立ち位置と役割

④教科学習との往還

⑤学びの連続性

①個に根ざした研究的・探究的な学び

学びの「目標設定」「道筋」「表現方法」をその子が思考・選定

集団・教科の枠を超えて、自らの学びをデザイン

学び集団としての枠

学年・学級

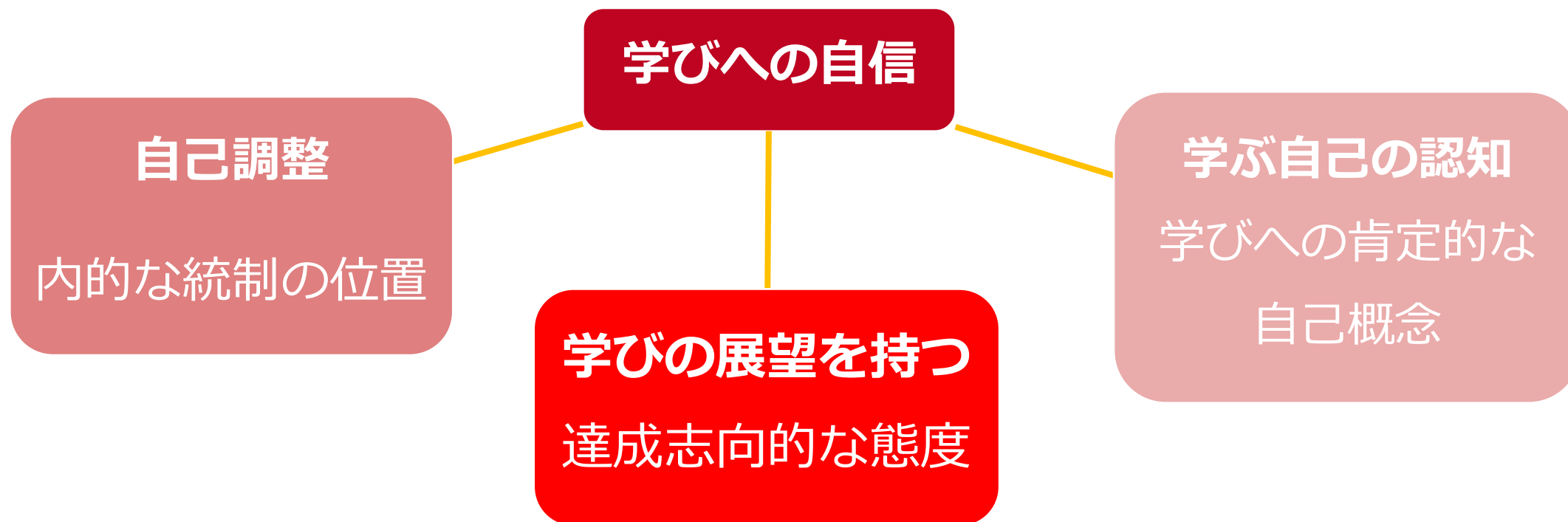
教師 仲間 上級生 下級生

学ぶこととしての枠

国語 算数 理科 社会

音楽 図工 体育 家庭 英語

② 学びへの自信



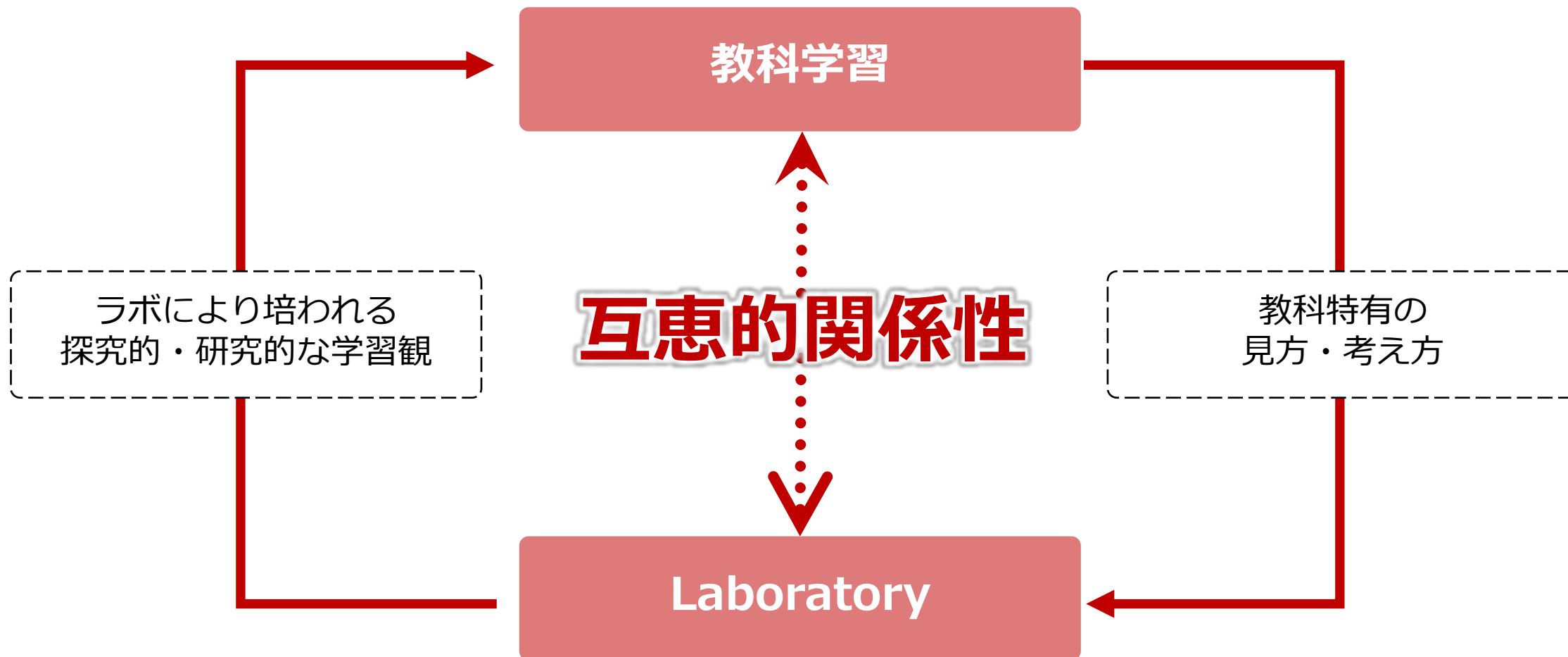
③教師の立ち位置と役割



そのときその場の子どもの姿や成果だけで判断せず、

その子の学びの文脈をとらえ、学びの意味をともにつくる教師

④ 教科学習との往還



⑤学びの連続性

低学年総合

3年生
学年・学級ラボ

4・5・6年
Laboratory

自分の願いや求めに応じた学び

自分の学びのVisionに迫る

様々な経験

興味を発展させる活動
仲間とつくる活動
経験をひろげる活動

経験を発展させる・深める

教科学習による学びの耕し

学びの目標・道筋、表現方法
を思考し選択する

Laboratory構想について | 想定される具体的な活動と手立て

①「ラボラトリーの時間」の設定

②子どもの学びたいことを把握

- | | |
|--------------------------|--------------------------------------|
| i) 知識獲得型；知る・わかるようになりたい | v) 制作発表型；つくりたい、みせたい |
| ii) 技能熟達型；できるようになりたい | vi) 挑戦経験型；初めてのことや苦手なことに挑戦したい |
| iii) 仮説検証型；～は、・・・なのだろうか | vii) 課題模索型；迷い中（細かいテーマ、ふんわりテーマ、高難度など） |
| iv) 模倣実行型；まねしたい、まずやってみたい | |

③教員の研究室設定と調整（所属人数 25名まで）

- ・教科 + a
- ・子どもがたのしい・好きなこと
- ・教師が子どもとともに学びたいこと

- ◇人文科学分野（哲学・社会学・文学 など）
- ◇自然科学分野（科学・生物学 など）
- ◇芸術スポーツ分野（音楽・スポーツ・ものづくり など）
- ◇複合領域分野（国際・情報・社会システム・経済・環境デザイン など）

④「ラボラトリーの時間」の設定方法と各研究室での活動

- ・ 自分の学びのVisionをもち、研究的・探究的に学び続ける子どもの活動を

→通年で「ラボラトリーの時間」を設定。

低学年下校後 火、木・金 14:00～15:30 (1回 90分間)

- ・ 別の視点や分野から学びをひろげるための研究室所属変更を

→前期・後期(4ヶ月間)で「ラボラトリーの時間」を設定。

- ・ じっくりと時間をかけて学ぶため、校外で学ぶための時間の保障を

→月1回の頻度で 1日 ラボ day を設ける。(7月から年5回)

⑤第3学年における学級・学年ラボの運用

■目的

- ・低学年総合とラボの接続
- ・子どもの「学び観」を豊かに広げる。

■内容と方法

- ・子ども一人一人の思いや願いに基づいた探究の時間
- ・学級や学年を単位として、年間 54～56／70 時間
- ・「ラボラトリーの時間」に合わせて設定

1学期： 11～15時間 「ラボって、こんな感じ」

2学期： 30時間 「発表（2年生の参観）から」「協働的なラボ」

3学期： 11～13時間 「4年から始まるラボに向けて」

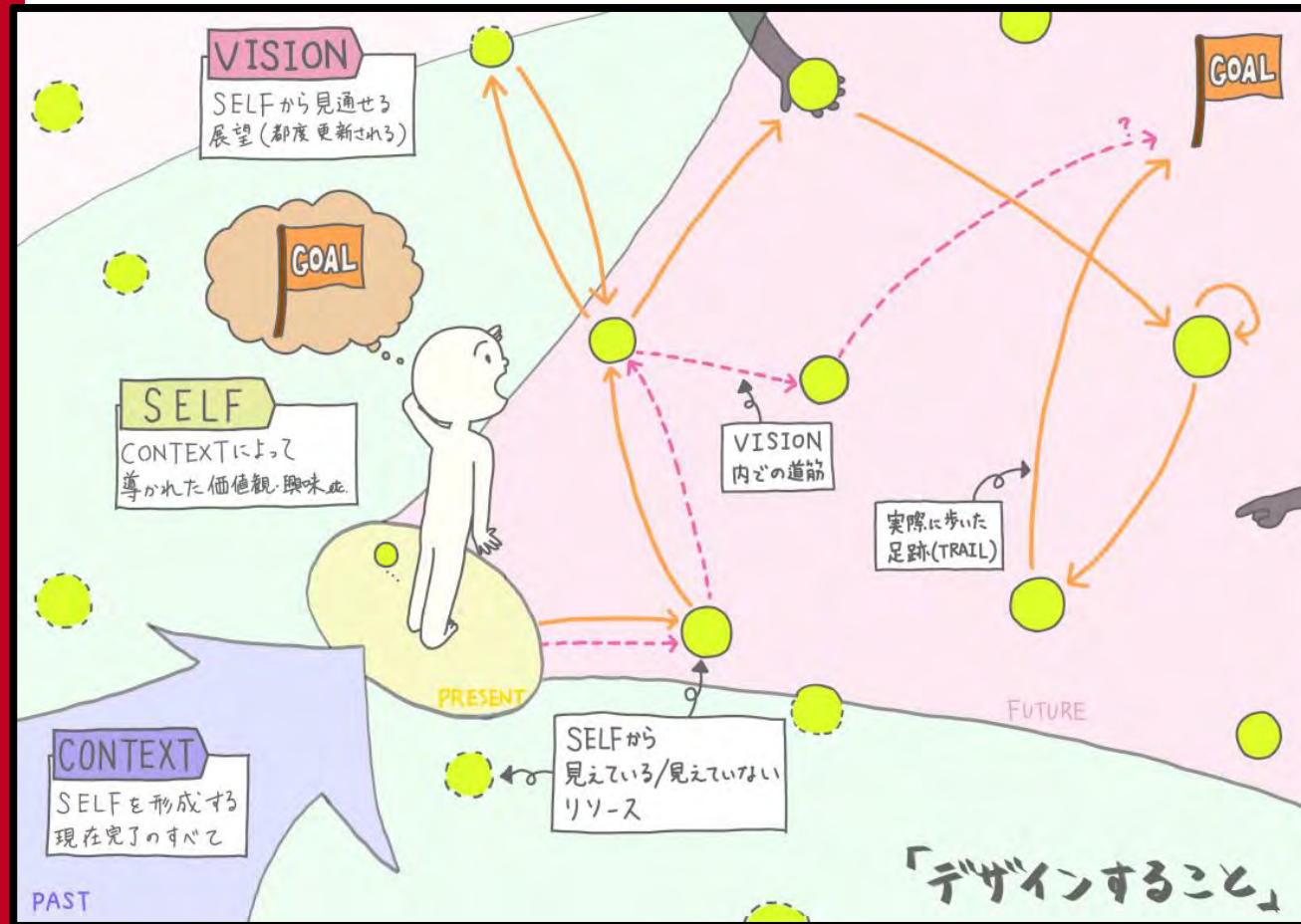
今年度の実践（前期ラボ）から見てきたこと



Laboratory構想について | Laboratoryと教科学習との学びの違い

ラボにおける学び		教科学習での学び
子ども一人一人が 自分の学びたいことに向かって 思考し選択する	目標・道筋、表現方法	単元目標と学習指導計画をもとに 教師が指導
子ども一人一人が 自分の学びのVisionに迫っていく	学びの文脈	学年毎の子ども集団の中で適時共有
その子にとっての学ぶ意味を 自分で見出していく	学ぶ意味	見方・考え方を働かせて 資質・能力を育成

今年度の実践（前期ラボ）から見えてきたこと（3年次） | ラボにおける学び



Vision

自分の学びたいこと

Laboratory 研究室

学びの展開

学習環境



計画

実行

振り返る

次へ

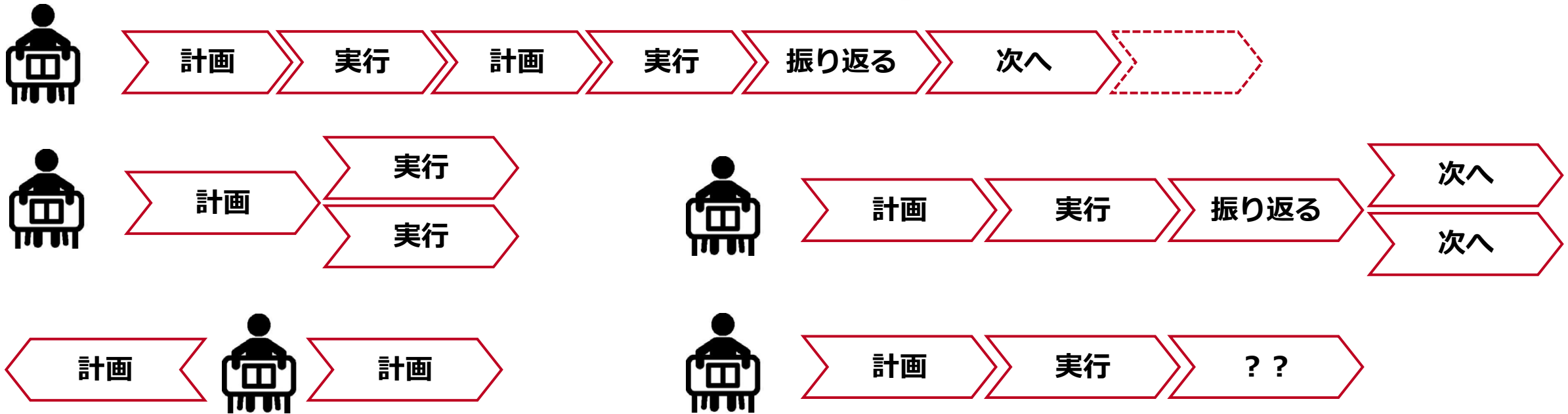


ラボにおける学び

Vision

自分の学びたいこと

Laboratory



教師はこの学びをどう支えていくべきだろうか？

今年度の実践（前期ラボ）から見えてきたこと（3年次） | ラボにおける学び

